

[39] radix : 九州大学全学共通教育広報

<https://hdl.handle.net/2324/20404>

出版情報 : radix. 39, 2004-09-30. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン :
権利関係 :



新世代のキャンパス計画と	
第1期移転	2
今、芸術工学部が熱い！	8



芸術工学部

撮影 宮本 守久

radix

新世代のキャンパス計画と第1期移転

九州大学は、近年の国際化、高度情報化、少子高齢化などの時代の潮流に対応するため、学府・研究院制度の全国初の導入をはじめとする大胆な改革を実施し、研究、教育とともに、社会に貢献する大学としての新たな成果をあげつつあります。生まれ変わりつつある九大の新しい活動の場として、新世代の大学キャンパスを福岡市西部に建設中です。

平成17年10月から福岡市西区元岡地区新キャンパスにおいて工学系箱崎地区の第1陣が移転する予定です。六本松地区に在学しているみなさんに新キャンパス計画について概要をお知らせします。

①どこに移転するの？

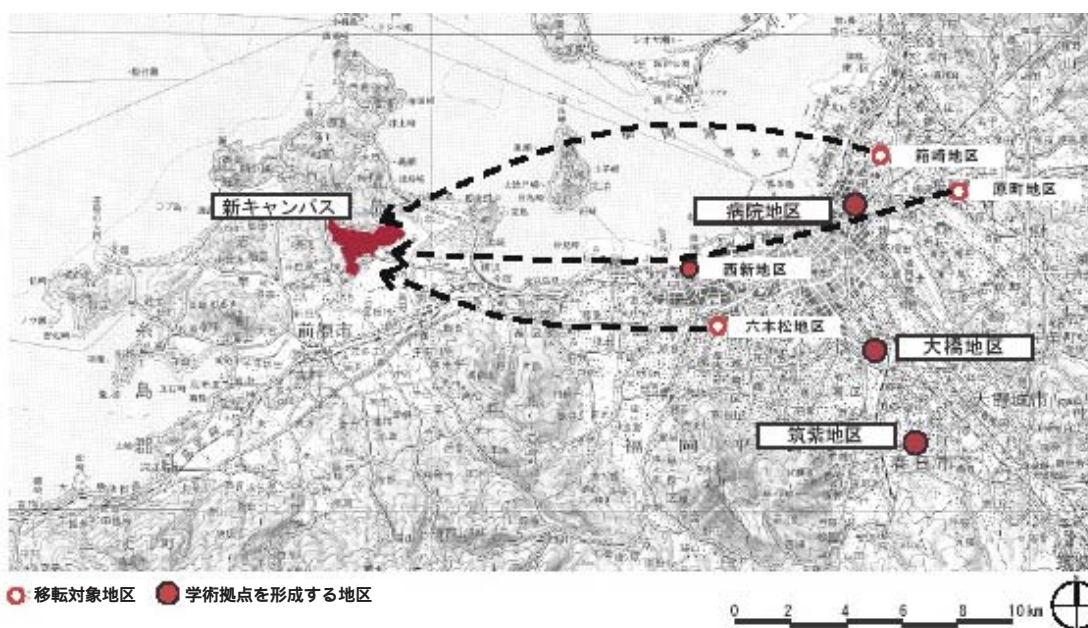


図 - 1 学術拠点としての九州大学キャンパスの位置

新キャンパスは、図 - 1 に示す通り、天神から約15km、車でおおよそ30分の距離にあります。移転の対象は、箱崎地区、六本松地区、糟屋郡原町地区の全学生と教職員、約16,000人です。

②移転スケジュールはどうなっているの？

移転は、毎年国の予算事情によりますが、2005（平成17）年度から開始し、2019（平成31）年度完了を目標にしています。工学系の新キャンパスへの移転を第1ステージ（平成17年度～19年度）、全学教育、比較社会文化、言語文化等の箱崎地区への移転を第2ステージ（平成20年度～23年度）、理学系、情報基盤センター、理系図書館Ⅱ、中央図書館、文系、全学教育、農学系、その他の新キャンパスへの移転を第3ステージ（平成24年度～31年度）として移転を完了します。

2005（平成17）年秋には、工学系第1陣（物質科学系、機械航空系）が移転します。学生と教職員に必要な研究室、実験室、講義室はもちろん、ラウンジや交流スペース、学部事務室などのほか、給水センター、エネルギーセンター、理系図書館等を整備中です。この隣に第2陣（地球環境系、システム情報系）が2006（平成18）年に入居するための施設にも着工しています（図 - 2、3、4、5 参照）。

表 - 1 移転スケジュール

時 期	第 ステージ 平成17年度～19年度	第 ステージ 平成20年度～23年度	第 ステージ 平成24年度～31年度
新キャンパスへの移転	工学系， 理系図書館 【4.3千人】		理学系，情報基盤センター，理系図書館， 中央図書館，文系，全学教育，農学系，その他【11.3千人】
六本松から箱崎への移転		全学教育，比較社会文化， 言語文化他【4.1千人】	



図 - 2 新キャンパス計画配置図

③工事はどれくらい進んでいるの？



図 - 3 新キャンパス上空写真 (H16・4)



図 - 4 新キャンパス 工区工事概要



研究教育棟Ⅱ・Ⅲ工事状況 (H16・5月末)



理系図書館工事状況 (H16・5月末)



エネルギーセンター工事状況 (H16・5月末)



給水センター (H16・3月末)

図 - 5 各施設の工事状況

新キャンパスの造成工事は、理学系・工学系・農学系とセンター地区の西側が入る 工区が平成12年（2000年）6月に着工し、平成14年（2002年）3月に竣工しました。現在は、工学系地区の大型実験施設用地および農場、運動場施設用地からなる 工区の造成工事が行われています。図 - 4 は、工学系地区を拡大したものです。研究教育棟（青色）と研究教育棟（黒色）および理系図書館、給水センター、エネルギーセンター（赤色）が現在建設中です。研究教育棟に入居するのは、機械航空工学部門群で、研究教育棟には物質科学工学部門群が入ります。研究教育棟は、平成18年（2006年）5月頃に工事完了の予定です。ここには、地球環境工学部門群とシステム情報科学研究院が入ります。

④新キャンパスまでの交通手段は？

新キャンパス（元岡）は、福岡都心部から西に約15kmのところに位置します。新キャンパスまでは、鉄道とバスが主な交通手段となります。

鉄道では、市営地下鉄とJR筑肥線が姪浜で接続し、都心部から西方面に、乗り換えなしで利用が出来ます。新キャンパス周辺の既存駅としては、周船寺駅、波多江駅、筑前前原駅があり、九大第一期開校と併せて今宿駅と周船寺駅の間に「新駅」が開業予定で、この駅が、新キャンパスのメイン駅となる予定です。一方、バスについては、新駅から新キャンパス（約4km）までの路線バスが運行される予定です。新たなバス路線となるため、現在バス事業者で路線開設に向けて準備をしてもらっています。また、天神から新キャンパス、博多から新キャンパスまでの直行バスなども検討されています。

バスによる新駅から新キャンパスまでの所要時間は約15分です。なお、自動車利用については、新キャンパスが公共交通重視を交通計画の方針のひとつとしていること（九州大学新キャンパス・マスタープラン2001）、および利用可能な敷地の制限などから自動車の乗り入れを制限することとしていますが、移転過渡期にあっては入構制限の緩和も検討します。

箱崎・六本松キャンパスを例にとって、料金と所要時間について、以下に示します。

【箱崎キャンパス】

- ・市営地下鉄「箱崎九大前」
↓ 540円、約35分（地下鉄＋JR）
- ・JR筑肥線「新駅」
↓ 200円台、約15分（バス事業者にて料金検討中）
- ・新キャンパス（元岡）

【六本松キャンパス】

- ・六本松
↓ 180円、約10分（路線バス）
- ・西新市営地下鉄「西新」
↓ 470円、約15分（地下鉄＋JR）
- ・JR筑肥線「新駅」
↓ 200円台、約15分（バス事業者にて料金検討中）
- ・新キャンパス（元岡）

⑤学生寮とかアパートはどうなっているの？

福岡市西区、前原市は、福岡市のベッドタウンとしていまだに人口が伸びている全国でもめずらしい地域です。その理由には、春日市、太宰府市などの南部への人口拡大に限度があること、JR筑肥線の複線化にともなう路線の強化、そして九州大学の移転があります。以前より、学生の住居整備が手薄になるとの指摘がなされ、九州大学はその確保に向けて、不動産業、建設業、土地所有者等に向けた説明会を数回にわたり実施してきました。さらに、学生さんへのアンケートを実施し、居住地の意向について把握に努め、関係業者へのデータ公開を行ってきました。今年より、各地で学生のためのアパート、マンションがようやく着工され、受け入れ体勢が整備されつつあります。新キャンパスは、JR筑肥線から4km程度であり、自転車通学が可能な距離にあります。JR筑肥線沿線には、今宿、新駅、周船寺、波多江、筑前前原等のJR駅周辺を核として各種商業施設があり、移転当初はこのエリアに多くの学生が住むことになると考えられます。平成18年度には、田島寮と同規模の学生宿舎を新キャンパスのセンター地区に建設し、センター地区には、順次、1,000人分の学生宿舎を整備する予定です。また、桑原地区とつながるキャンパス用地東部にも学生居住用地を設けています。第2ステージには、大学周辺の桑原・元岡地区でも学生街の整備が進みます。

移転過渡期には、多少の不自由をおかけすることが予想されますが、皆様のご理解を宜しく願います。

さかい たいし ひろしるよしなり
坂井 猛、広城吉成（新キャンパス計画推進室）



全ての種を守る ― 九大新キャンパス生物多様性保全事業の挑戦

や はら てつ かず
矢 原 徹 一

私たち人類は、自然を壊し過ぎた。

私を植物学者へといざなってくれた実家の裏山は、瀟洒な住宅街へと姿を変えた。毎日のように遊んだ小川もアスファルトの下に埋められ、ナマズもドジョウも棲家を失った。そんな変化が、日本中で、そして世界で起きた。その結果、地球温暖化に象徴される、生態系の異変が顕在化した。

もうこれ以上、自然を壊していけない。多くの人がそう思うようになった時代に、九大統合移転事業は開始された。275 ヘクタールの里山を開発して、新しいキャンパスを作るこの事業は、相当な規模の環境破壊をせずには達成できない。時代を反映して、移転事業の理念の一つに「環境共生型キャンパス」がうたわれたが、果たしてどうすればこの理念を現実のものにできるのか。私は、造成開始が6月に迫った2000年の1月から、この課題に本格的に向き合うことになった。環境影響評価が実施され、さまざまな環境保全対策がすでに立案されてはいたが、生物多様性保全に関する調査・検討は、私の目には不十分に思われた。そもそも、どんな植物がどこに生えているかが、正確に調査されていなかった。また、地球温暖化対策として、森を増やそうという市民団体の取組みが活発化している中で、森林面積をどう確保するかについての計画が弱かった。そこで、「キャンパス内に生育している種の消



失を起こさない」「森林面積を減らさない」という目標を設定し、世界一徹底した生物多様性保全事業を推進することを心に期して、私の悪戦苦闘が始まった。

その後、多くの方々のご理解・ご協力を得て、九大新キャンパス生物多様性保全事業は着実に成果をあげてきた。新キャンパス用地では、左の写真のように、広大な造成地に高層ビル群が姿をあらわし、かつての里山景観は、大きな変貌を遂げた。しかしながら、造成地から「生物多様性保全ゾーン」と呼ばれる谷を下ると、上の写真のような森林が残され、春にはヤマザクラが咲いて美しい。夜にはタヌキやノウサギが駆け回っていることが、赤外線センサーカメラを使ったモニタリングで確認されている。6月には、ゲンジボタルが乱舞する。絶滅危惧種のカスミサンショウウオやニホンイシガメも棲息していて、これらについては市





民グループによる継続的な観察が実施されている。

九大新キャンパス生物多様性保全事業の一つの特色は、上の写真のように、特殊な重機を用いて森林を移植したことである。高木をそのままかかえあげて移植する方法に加え、森林植生を1.4m×1.4mのブロックに切り取り、土壌ごと移植する方法を採用した。生物多様性保全ゾーンと造成用地の境界斜面には、この方法で約1ヘクタールの森林が移植された。

このような移植作業の一方で、植物種に関する徹底した分布調査を実施した。その結果、キャンパス用地には約658種の植物が確認された。これらのうち、造成用地にしか分布しないものや、造成の影響を大きく受けるものについては、造成計画を微調整したり、個別に移植を行ったりして、1種も滅ぼさないための真剣な努力を続けてきた。

水生植物・水生動物の保全のためには、池の移設や新設という本格的な対策が採用された。

このような保全事業は、世界的にも注目されている。世界でもっとも権威ある学術誌 *Science* の7月16日号には、Conservation takes a front seat as University builds a new campus と題する記事が掲載され、九大の生物多様性保全事業が紹介された。

このように、徹底した保全対策を実施しているが、「守る」という行為だけでは維持できないのが、里山の生態系の特色である。もともと里山の生態系は、水田・畑地・果樹園・竹林など、さまざまな形で人間に利用され、下草刈りや間伐などの管理の下で維持されてきた。ところが、九大移転用地として土地開発公社が用地を取得して以後は、約10年にわたり、里山が利用されずに放置されてきた。その結果起きたもっとも顕著な変化は、竹林の拡大である。江戸末期に中国から持ち込まれたモウソウチクは、放置すればシイ・カシの林に進入し、自生の森林を枯らしてしまう。

このような竹林の拡大から森林を守るために、新キャンパス用地では、市民団体（福岡グリーンヘルパーの会）と、学内NPO（環境創造舎）が協力して、竹の伐採・除去作業を行なっている。さらに、新キャンパスの森でひろったどんぐりから苗を育てて森を作る「どんぐりの森をつくろう」計画を、小中学生に呼びかけて実施している。新キャンパス用地275ヘクタールのうち、99ヘクタールは保全緑地として残され、さらに22ヘクタールの造成のり面も、可能な限り樹林化していく方針である。生物多様性保全ゾーン入り口の造成のり面には、すでに小中学生が植えた1000本以上の苗が、すくすくと育っている。

このような新キャンパスでの取り組みを教育に生かすために、新キャンパスにおける森林や生物の保全をテーマにした少人数ゼミナールCを4年前から開講している。学内NPO「環境創造舎」では、このゼミのメンバーが活躍している。環境創造舎による環境保全型水田を作りなどに参加しながら、新キャンパスの生物を実際に調査し、保全計画を提案していくという実践的なゼミである。授業が1コマ増えるのは大変だが、毎年意欲的な学生に出会えるのは、楽しい。このゼミの卒業生が、九大新キャンパス生物多様性保全事業の将来をきっと支えてくれるだろう。（理学院）



芸術工学部をあばく！

新生九州大学芸術工学部。

今、
芸術工学部がものすごい。
芸術工学部が興味深い。
芸術工学部が楽しい。
芸術工学部が熱い。
芸術工学部が・・・。

げいじゅつこうがくぶ 【芸術工学部】

九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府は、次のような画期的な理念のもとに発足した九州芸術工科大学芸術工学部・大学院芸術工学研究科を継承するものであります。

「本学は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを統合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。」

『大橋キャンパス案内』より

芸術工学部をあばく！

個性的な学科が5つ。

芸

工生を見ていると、とにかく個性的であることがわかる。彼らから放たれる刺激は心地よい。彼らを見ていて飽きない。サークル活動や個人的活動すべてに熱を感じる。そんな彼らの未来は、おそらくみんなのアイドル。そして彼らのバックグラウンドが、環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科、芸術情報設計学科の5つの学科である。そこには、他にない各々の特徴を持っている。それらが集まった芸術工学部から奏でられるモノは、最強なのだ。

課題がきつい！？

環境は課題がかなりきつい。徹夜だらけでもう嫌…なんて嘆きをしばしば耳にする。しかし、そんな課題のおかげで、実は総合的なデザイン力が身についているというのがミソ。環境は、5学科の中で一番クラスの仲が深まりやすいんだとか。

環境設計学科



専門：
環境論
環境計画設計
環境システム

おしゃれな「工業」。

なんとなく派手でおしゃれな人が多いのが工業。彼らはモノづくり好きの集まり。といっても、やってることは様々。ひたすら絵を描いている人から、バイクをブイブイわせている人までいる。そんな工業の学生と友達になると楽しいことがありそう。

工業設計学科



専門：
人間工学
インダストリアルデザイン
知的機能工学

実はいろんなことしてる「画像」。

画像と聞いてCGだけやるところかと思いきや、TV番組とかCMとかをつくったり、フリーペーパー発行したり映画とったり。授業だけでなく、自ら様々なことに手を出している、意外と活動的な集団。彼らの先には明るい世界が潜んでいる。

画像設計学科



専門：
視覚学
視覚芸術学
画像工学

レアである。

日本唯一の学科。音楽に熱い人達が集まっている。音大で音楽だけ、工学部で物理だけってのも嫌だ、という人の願いを叶えてくれる。ここに入ると、耳に入ってくるあらゆる音は直ちに解析され、波形が目に見えやすくなるらしい。芸工随一の秀才である。

音響設計学科



専門：
音文化学
音響環境学
音響情報学

今年で8年目。

比較的歴史は浅い。が、映像、造形、文化、芸術、メディアなど学ぶことは幅広くておもしろい。「幅広い分野を学んでるからバランス感覚が身に付く」との声も。音楽にも、絵にも科学にも堪能な人として知られる第二のレオナルド・ダ・ヴィンチになれるかも。

芸術情報設計学科



専門：
芸術文化論
メディア設計学
情報環境学

食堂



石畳



石碑



グラウンド



チャリ置き場



テニスコート



7号館



葉っぱ



5号館



馬のオブジェ

多次元デザイン実験棟
1Fロビー

ベンチ



噴水



木



オブジェ



多次元デザイン実験棟



赤い花



ロッカー



2号館



オブジェ



ホモトロン



工作工房



ゴミ箱

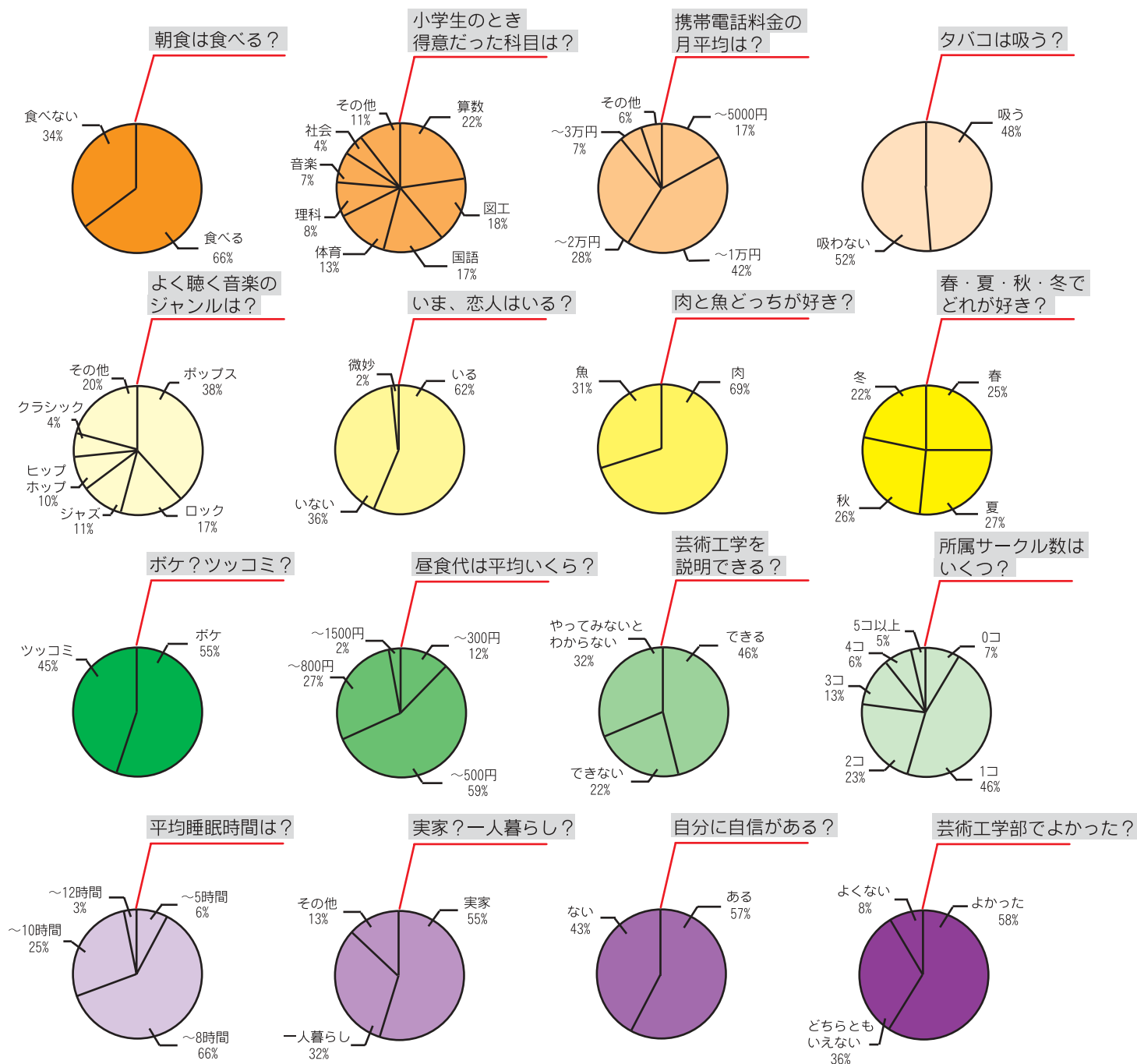


噴水周辺



正門の前に立つ。
が、これが正門？と思ってしまうような出で立ちで、大橋キャンパスは、大橋の閑静な住宅街にまぎれ、ひっそりとたたずんでいる。守衛室のあるそこが正門。正門に入ると、目の前に並木道が続く。木々の隙間から流れ込む日差しを浴びながらキャンパス内へ。噴水の水面に反射する光の眩しさに一瞬目を閉じ、眠気が残る体が呼び覚まされた気がする。キャンパスの中心に悠然と構えた一本の木を見上げる。風に揺られかすかに聞こえる木の葉のささやき。その耳触りの良さに、思わず足を止める。
・・・と、こんなことをしている場合ではない。講義が始まる。校舎に向かう途中、猫が日向ぼっこをしながら堂々と眠っているのを見つける。一緒に戯れたくなるのを我慢して、足早に教室へ向かう。
友人の教室に駆け込む姿が見えた。私も無意識に教室に駆け込む。間に合った。静かに席につく。
そしてまた眠りについた・・・。

ゲイコウセイにやたらと聞きました。



A large, intense bonfire burns at night, its flames reaching high into the dark sky. The fire is composed of many layers of burning wood, creating a stepped appearance. In the foreground, the back of a person's head and shoulders are visible, looking towards the fire. The background shows some buildings and a dark sky.

九州芸術工科大学（現九州大学芸術工学部）の学園祭の最後を飾っていた火祭り。グラウンド中央に燃え盛る巨大な火槽（ひやぐら）を囲んで、太鼓のリズムに合わせて人々が延々と踊り続ける原始的な祭り。二重円の外と内で向かい合った人々が、大声を張り上げ全身を振るうその光景は、人間の本能を呼び醒ますような野性味溢れる空間を創り出す。大学生のみならず、周辺地域の人々にもよく知られた、同学の学園祭にとって欠かせないものとなってきた。その“火祭り”の輪を率いているのは、ペイントをした麻袋を全身にまとい、顔中にドーランを塗った“火祭り隊”。学園祭前夜祭の日に聖火を灯し、学園祭の幕を開ける。学園祭中も様々な儀式を執り行ない、学園祭の最後を締めくくる、まさに学園祭の顔となっていた。そして、2004年11月、火祭りは生まれ変わり、新たな歴史の幕開けとなる。

2004年11月、火祭りをくられ。

芸術工学部をあばく！

九大に新しい色を・・・。

芸術を工学たらしめる、

工学を芸術たらしめる、

人にやさしい、

技術の人間化。

九州大学 芸術工学部 大学院芸術工学府
Kyushu University School of Design Graduate School of Design

(芸術工学部 4年 坂本 一浩 にかわ 新川 昌明 ばば 尚美 山田 寿美子)

サークル紹介



使える英語を学びたい。

工学部2年 ^{どう}堂 ^{わき}脇 ^{よし}吉 ^{のり}典

What's ESS?

近年、英語を使わない仕事はめっきり少なくなってきました。皆さんの中にも将来のために TOEIC や TOEFL などの資格試験の勉強をされている方、英会話学校に通っている方、留学を目指している方などたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。そんなみなさんに、ESS というサークルを紹介したいと思います。ESSとは“English Speaking Society”の略称です。現在、1、2年生の部員約16人で活動しています。英語に興味がある学生が集まって、わいわい楽しく（時に真剣に）英語で交流しています。

How is our Activity?

私たちの活動は、デイリー活動とセクション活動に分かれています。毎週水曜のデイリー活動ではおしゃべりやゲームをして部員同士、交流しています。そして、週に1、2度は各セクション(Discussion・Academic Debate・Parliamentary Debate)に分かれて活動しています。また、他大学のESSとの交流も盛んに行われています。

What's the Section Activity?

ここで少しセクション活動について触れておきます。セクション活動ですることは英語での議論です。しかし、現実社会で行われているように議論の帰結自体を目的とするものではなく、その準備段階から結論が出るまでのプロセスでの学習的、教育的効果を目的として行われるものです。したがって、TOEICなどの資格試験の勉強で英語力を鍛える部員もいれば、セクション活動を通じて、ビジネスでも使える英語を目指す部員もいて、個人の目的によって様々です。

では、各セクションの特徴を簡単に説明します。まず Discussion とは、7人程度のグループに分かれて、ある論題について Discussant の一人が発した提案を採用するかどうか、話し合います。次に、Academic Debate (NDT style) はアメリカの大学対抗ディベート大会を模して行われるディベートで、日本の英語ディベートの主流です。肯定側、否定側にわかれて2対

2で議論します。一方、Parliamentary Debate は、英国の議会における討論を模したディベートで、NDT style に比べて議論の即興性が高いのが特徴です。

Why did I become a member of ESS?

私は建築学科の学生ですが、予備校生のとき、アメリカの大学の教育システムと学生の学習意欲の高さに惹かれ、次第にアメリカの大学に進学したいと考えるようになりました。しかし、家庭の事情で九州大学に進学することに決め、それでもどうにかして英語の力をつけ留学をしたい、将来、施主や専門家との議論や建築計画のプレゼンテーションの際に、英語でもうまく意思の疎通を図る力をつけたいと思い、ESSに入部しました。

Let's enjoy communication!

わたしのこれまでの経験でわかったことは、英語の Speaking と Listening の上達には「慣れる」ことが大切だということです。そして慣れるのに一番楽しくて、刺激的で、効率がいい方法は、自分の伝えたいことをきちんと伝え、相手の伝えたいことを理解しようとする訓練、つまり英語でのコミュニケーションの訓練ではないでしょうか。ESSでは、うまく相手に言いたいことを伝えるため必要な発音や語彙力はもちろん、わかりやすい文章の組み立て方、また、議論を深めるための社会情勢の知識など、様々な力を身につけることができます。そしてなにより、英語に対して意識の高い仲間存在は、このような能力を得る際にきっとあなたの心の支えとなってくれることでしょう。



昨年度の夏のキャンプ

九大女子ラクロス部紹介

教育学部2年 輪島 かなこ 加奈子

九大女子ラクロス部に入ってよかったことは？

ラクロス部に入ったおかげで大好きな仲間たちと毎日充実した生活を送ることができること。「仲間って素晴らしい」なんてクサイ言葉だと思ってたけど、今では心から頷ける。ひとつのコトに向けてみんなで頑張り、その達成感をみんなで味わうことができる楽しさと喜び経験できたこと……なあってちょっとカッコイイことを挙げてみましたが、九大女ラクの一番自慢できるポイントは、要するに「仲間、大切なヒトが増える」ということです。他にも九大女ラクメンバーには次のような特典がついてきます！

- 1 素敵な先輩に出会える
- 2 充実したメリハリのある生活が送れる
- 3 他大学の友達が増える
- 4 特に夏は引き締まる！（2年生アンケート結果）

確かに「食費がかさむ」、「たくましくなりすぎる」といったようなデメリットはありますが、そんなこと関係ありません！ 何よりもラクロスは楽しい！ そしてラクロッサーはおもしろい！！ 特に九大女ラクメンバーと話をしようものなら、笑いすぎて腹筋が鍛えられるという噂もチラホラと……。しかし、笑顔を忘れない魅力的な女性になれること間違いなしです！！そして素敵な出会いが沢山あるとすれば、もう言うことナシじゃないでしょうか！？

ここで少し部の紹介をさせていただきます。

現在の部員数はプレーヤー40名、マネージャー6名、コーチ3名の計49名です。昨年は目標の1部昇格を果たし、今年は九州リーグ優勝、そして全日出場という目標のもとで日々練習に励んでいます。また九大女ラ



クのモットーは強くなることとともに、「楽しくラクロスをする」ことでもあります。そこで夏休みなど時間がある時には、合宿や遠征、練習試合等も計画しており、楽しむことも念頭に置いています。

九大女ラクは部活ですし、ここまでくると毎日練習に明け暮れて、ガツガツしているような印象を与えてしまうかもしれません。しかし実際はそうではないのです。練習に対する姿勢が真剣なのは言うまでもありませんが、遊びに対する姿勢も真剣そのものです！

例えば昨年の行事を挙げてみると、夏には天草キャンプで海でバーベキューをしましたし、冬には全日ツアーで試合観戦ついでに東京ディズニーシーに行ったり、九重への温泉キャンプもありました。また春先には莓狩りなど、本当にイベント盛り沢山です。このような行事はたいてい男・女一緒に、九大ラクロス全体で盛り上がります。その様子はまるで、世界で一番の大家族のようです。というより、もう家族そのものです！ こう言っても過言ではない程、九大ラクロス部は全体で仲のいい部活です。

みなさんも是非、人生の糧になるような素晴らしい出会いをしに九大女ラクに来てみませんか？ そして第2の家族を作っちゃいましょう！！ もし興味がある人はホームページを覗いてみて下さい。

九大女子ラクロス部

http://page.freett.com/Q_lax/index.html

九大ラクロス部

<http://members.at.infoseek.co.jp/kyulax/home.htm>





議員インターンシップに参加して

— 政治家はテレビの中の住人ですか —

法学部3年 しょう じま か おり
 庄 島 香 織

爽やかな初夏の風が吹く、うららかな午後。一人の女子学生が講義室で何かを配り始めた。「NPO 法人のドットジェイピーです。議員インターンシップに興味ありませんか？」一枚一枚、懸命に笑顔でピラを配る彼女とは対照的に、ピラを受け取る学生の反応はどれも冷ややかなものだった。日常に割り込む異質。「議員インターンシップ」という不可解な響き。

彼女が私のところにもやって来た。もはや同情の気持ちがいっぱいで、私は差し出されたピラを受け取った。ピラに書かれた「政治家はテレビの中の住人ですか」という一言と、彼女の後ろ姿が私の脳裏に焼きついた。それが、すべての始まりだった。

法学部の学生として、「政治家」は講義やレポートの題材の一種だった。そして、現代政治や選挙制度を考察する中で、「政治家」という存在に対して憧れや期待を感じることはなかった。むしろ、利益分配政治や官僚中心政治、政治家の汚職という現実を知るにつれて、「政治家」に対する嫌悪感がつのった。日々のメディアを賑わすのは、「政治家」のとんでもない暴言と失言。一方で、選挙前だけは選挙カーを走らせ、「国民のために」と絶叫し、パフォーマンスを行う。

この現実の中で、「政治家」に対してどんな憧れを抱けるというのだろうか？

そんな嫌悪感との葛藤の中、私は2004年春の議員インターンシップ参加を決意した。確かに、メディアや講義を通じて見る「政治家」の姿は、事実の一側面であるだろう。しかし、自分自身の目で、最も近い場所から見ることでしか見えないものもあるはずだ。現実を悲観するだけなら、誰にでもできる。しかし、本当に何かに不満を感じるのなら、そして少しでもそれを変えたいと思うのなら、自分から行動を起こさないことには何も始まらない。議員インターンシップ参加締め切りの前夜、私は腹を括った。

ピラを受け取ったあの日からおよそ半年後、寒波が福岡を襲い雪が舞う一月のある日、私はあのときの彼女と、とある県議会議員事務所の玄関の前に立ってい

た。その日は初めて「政治家」に出会う日だった。

皮張りのソファがあると思っていた事務所にあったのは、普通のパイプ椅子だった。高級ブランドのコートでも着ているのだろうと思っていた「政治家」が着ていたのは、普通のジャンパーだった。権力闘争と資金集めにしか関心がないのではないかと思っていた「政治家」が語るのは、具体的な数字と経験に裏打ちされた行政改革案と福岡の財政状況だった。

2月の中旬、後期試験を終え春休みに突入し、私のインターン生活が始まった。毎朝コーヒーを飲みながら新聞を精読し、身支度を整えながらテレビニュースの言葉に耳を傾ける。移動のバスの中では、勉強するようにと渡された資料を読んだ。県議会傍聴や事務所での事務作業を終え、日報を書く。拙いながらも、資料を読んで気になった点を、レポートにまとめた。

県議会や委員会を傍聴するなかで、目を疑うような「政治家」や行政の姿を何度も目にした。議会中に居眠り、途中退席。そして質問の答えにならない答弁を繰り返す県庁職員。一方で、直接に様々な話を聞く機会をもち、仕事ぶりを現場で見ることによって、希望を持てる「政治家」や行政職員も少なからず、確かに存在するのだということは分かった。

日々痛感した。今までの自分の知識がいかに何かの受け売りで、浅いものであったか。そして、いかに今まで自分が「フィルター」を通して物ごとを見てきたか、ということ。

「政治家はテレビの中の住人ですか」その答えを出すことができるのは、自分自身であるのだ。

議員インターンシップへの申し込みは...

NPO 法人ドットジェイピー

URL : <http://www.dot-jp.or.jp>

E-mail : fukuoka@dot-jp.or.jp

普段の生活の中に「いい時間」を見つけよう

— 学生相談カウンセラーからのメッセージ —

き ら やす ゆき
吉 良 安 之

あなたは自分の生活をどのように組み立てていますか。頭のなかにある手帳には、1週間の授業の時間割や、部活やサークル活動の予定、アルバイトの日程、友だちとの約束の日取りなどがいろいろと並んでいるだろうと思います。私たちは自分の生活を「いろんな用事」で組み立てています。

生活がスムーズに進んでいるときは、私たちはそれらの用事を順にこなしています。しかし、忙しくなってきたり気掛かりが重なってくると、それらが自分のこちらの大部分を占めてしまい、他のことにはあまり目が向かなくなります。毎日の生活がいろんな気掛かりに占領されてしまって、それ以外のことは意識されにくくなるのです。

しかし、私たちの生活はしなければならない用件や気になる事柄だけで成り立っているわけではありません。悩み事や心配事があっても、私たちは毎日ご飯を食べたり、気の合う友だちと話をしたり、ゆっくりお風呂に入ったりしています。くつろぎの時間や楽しみの時間もあるはず。本屋で立ち読みをする時間や、気に入った景色を眺めながら学校に通う時間、友だちと雑談をする時間、好きなタレントが出るテレビ番組を見る時間などは、大して気に留めてはいないかもしれませんが、私たちが自分の生活のなかに作っている、ちょっとした「いい時間」なのです。

そういった「いい時間」が自分の毎日の生活のなかにまぎれ込んでいるのに、私たちはそれにほとんど気を留めなかったり、気づかずに通り過ぎたりしがちです。そして自分の生活が気掛かりな事柄で溢れているように感じるのです。ちょっともったいないと思いませんか？

あなたの日常生活に埋もれて、普段は見えにくくなっている「いい時間」を再発見するための方法を以下に書いてみます。10分程度の時間があれば、どこでもできると思います。どんなときにやってみてもいいですが、面白くないことがあって嫌な気分になっているときや、エネルギーをつかう事柄が続いて疲れてしま

っているときなどに、普段とはちょっと違った視点から自分の生活を振り返るのにオススメです。参考にしてください。

〈普段の生活に「いい時間」を見つけるための手順〉

ゆっくり自分に向き合って生活全体を振り返る

10分程度、ひとりでゆっくり自分に向き合える時間を作ります。目を閉じた方がよければそうしましょう。バスや電車の中とか、散歩をしながらの方がやりやすい人もいます。できれば、メモのための紙1枚とペンを手に持ちましょう。そして、普段の自分の生活全体をぐるっとゆっくり眺めて、振り返るようなつもりになりましょう。

「いい時間」を探す

自分の生活の全体を眺めながら、そのなかに、どんな「いい時間」があるだろう、と探してみてください。「いい時間」とは、楽しい時間でもいいし、リラックスする時間でも、充実した時間でもいいです。何か浮かんだら、その時間を過ごしているときの自分の気分や気持ちを確かめ、それがどんな感じの時間か、メモ用紙に書き留めます。少なくとも2つ、できれば4つか5つくらいの「いい時間」を見つけ、それぞれの時間の自分の気分や気持ちを確かめて下さい。

「いい時間」を味わう

ひと段落ついたら、思いついた「いい時間」がいくつかあったか、それぞれが自分にとってどんな感じの時間だったかを振り返ります。メモをとった人はそれを読み返します。見つけたものを並べて眺めてみると、何か感じることもあると思います。人という時間がいいんだな—と感じる人、逆に自分一人の時間が大切なんだと気づく人、意外にたくさんの「いい時間」がうかんでびっくりする人など、それぞれです。

要は、普段とは少し違った視点から自分の生活を眺めることです。日常生活に埋もれて見えなくなっている部分に、新鮮な目を向けるのは楽しいことです。

(高等教育総合開発研究センター)

世界・日本

第2回ドイツ・インターンシップ研修

Andreas Kasjan

去年の3月に始まり、今回で2回目となるこの行事は、従来の研修旅行とは異なり、インターンシップが組み込まれている。旅行の目的地は今回も、人口4万人ほどのレムゴ市であった。この町は、1690年来日し『日本誌』を著した外科医・博物学者ケンペルの故郷である。この町には日本語が教えられているギムナジウム（5年生から13年生までの9年制教育機関）がある。このギムナジウムの校長と日本語を担当する教諭が、2年前にレムゴでの日本人学生向けインターンシップの実施を提案し、この行事の世話人となった。

旅行のアレンジは第1回目と同じである。すなわち4週間のレムゴ市での滞在の形態はホームステイとし、最初の1週間はドイツ語講座、残りの3週間にはインターンシップを設けた。さらにインターンシップ先は、学生が選択できるようにした。インターンシップのためのビザも必要だが、日本とドイツの間には「ワーキング・ホリデー」という協定があり、30歳以下の日本人が短期間の就業許可を得られる簡易手続きが設けられているので、参加者全員が無事にビザを取ることができた。

今回は第1回目とは異なり、半年以上の準備期間があったので、ドイツ語やドイツ事情の学習をより一層深めることができた。そのため、私たちはほっとした気持ちで、今年の2月28日にドイツへ旅立った。今回はその上、ドイツへ旅立つ前に、去年の6月以降ほぼ

毎週土曜日に、申し込んだ学生のための小グループ勉強会を実施していた。10月の初めに選抜試験を行った。試験に合格した学生と一緒に、10月上旬には1泊2日の合宿をした。その後、ドイツへ出発するまで4回、4時間はどの講習会を行い、さらに、ほとんど毎週、小グループ勉強会を実施した。

最終的にこの旅行に参加することになった学生は8人、男女は4人ずつであった。また、8人の内一年生が7人もあった。今年の2月28日の午後、私たちはドイツのフランクフルト空港に到着した。入国してから、電車で15分離れたフランクフルト中央駅にむかい、そこで大きな荷物をコインロッカーに入れた。その夜はフランクフルトのユースホステルに泊まった。

夕食はユースの近くにあるりんご酒やフランクフルトの伝統的な料理で有名なサクセンハウゼン地区で取った。由緒ある「りんご酒屋」に行ってみることにしたが、そこに入ると大騒ぎになった。客は地元の人々がほとんどであり、観光客が私たち以外に入っていなかったからである。ドイツ人の中年夫婦と同じテーブルに座ることになり、このチャンスを利用してドイツ語会話を試みた学生もいた。2時間ほど飲んだり食べたりした。りんご酒は学生の口にそんなに合わなかったようだが、ソーセージとじゃがいもの盛り合わせ、フランクフルト風もつ鍋とハンドケーキというような料理は好評を得た。このようにしてドイツでの第1日は



パン工場で



下水道掃除車を見学

気持ちよく終わった。

翌日は豪華なバイキング式の朝食を食べてから、町を散歩しがてら、40分ほど離れた駅まで歩いていった。そこから電車で、レムゴから8キロ離れたラーゲ駅へ向かった。電車を3回乗り替えて、5時間の旅はやっと終わった。ラーゲ駅ではホストファミリーに温かく迎えられ、旅のつらさは和らいだ。

最初の一週間、水曜日を除いて月曜日から金曜日まで、学生は「ケンペル・ギムナジウム」で毎日3時間のドイツ語講座を受けた。放課後には、「ケンペル・ギムナジウム」で実施されている日本語授業を参観し、町とその周辺を見学した。私たちは「エーベン・エーツァー基金」という精神障害者施設や「ツムトーベル・シュタッフ社」という電気メーカーを訪ねた。また、去年と同様に、市長との2時間ほどの話し合いの席にも恵まれ、学生たちはそのチャンスを利用して町の行政に関する質問をした。しかし、この一週間で一番楽しかったことは、ドイツ語講座を担当してくれたハーゼ先生の自宅での夕食であった。ハーゼ先生は学生全員を誘い、ご馳走をして下さった。そのうえ、翌日の授業で昨夕の料理のレシピを学生に教えて下さった。

2週目からインターンシップが始まった。学生は皆、自ら希望した分野のインターンシップ先で月曜日から金曜日まで、毎日8時間程自習したり働いたりした。今回のインターンシップ先はパン屋とパン工場、博物館、町の下水道と営林局、保育園・幼稚園、小学校と耳鼻科の診療所であった。インターンシップ先での日常会話はほとんどドイツ語だけであった。言葉がわからずに苦しむことがもちろんあったが、その苦しみは徐々に和らいで、最後の週には自分の意志もある程度伝えられるようになった。

レムゴでのインターンシップ・研修が上手く行ったのは、ホストファミリーの方々のおかげである。温かい家族が支えてくれたので、学生はインターンシップ先で頑張れるようになった。週末には、ホストファミリーが学生をレムゴ市内とその周辺にある観光地やケルンまで連れて行くなど、学生が楽しく過ごせるように一生懸命努力してくれた。また、ホストファミリーにいる学生と年の近い若者が夜、学生を飲み屋、ディスコやハンドボールの試合に連れて行ってくれた。

ホストファミリーとインターンシップ先の方々の温かい心遣いのおかげで、レムゴでの滞在はあっという間に終わってしまった。3月24日にはお別れパーティーが実施され、学生はホストファミリーやインターンシップ先でお世話になった方々に「かくや姫」の紙芝居を演じたほか、折り紙や習字を披露した。3月27日の朝には、学生はホストファミリーにラーゲ駅まで見送ってもらい、泣きながら別れを告げた。その後はまた電車でフランクフルトに向かった。フランクフルト駅に着いた時、時間的にまだ余裕があったので、2時間ほどフランクフルト市内を見学した。夕方には、空港に向かい、東京行きの飛行機に乗り、翌日には無事に日本へ帰ってきた。

インターンシップを組み込んだことで、ドイツの日常生活やドイツの文化を深く経験しながら、ドイツ語を学習・習得することができた。この行事が長く続くことを期待している。

学生諸君お疲れ様でした。この行事を成功させるように手伝って下さった同僚に感謝致します。

(言語文化研究院)



紙風船を楽しんでいる小学生



小学校でのインターンシップ先で

世界・日本



An Approach to Japan

Dietmar Möbius

My colleagues and friends in Gottingen, Germany, were surprised when I decided to spend 4 months as invited professor in Japan. They thought that a lot of courage is required for such a long stay in this country with such a different character as compared to Europe. Well, I have been visiting Japan before several times and had become quite familiar for example with the subway in Tokyo, using chopsticks and enjoying sushi and sashimi. For me Japan was not so far from the small University town of Gottingen, located in the geographical center of Germany, approximately half way between Frankfurt and Hamburg. My colleague Osamu Shibata met me at the airport in Fukuoka and kindly took me to my apartment in the Foreign Researcher Residence. I felt very comfortable and relaxed.

The work

My obligations as visiting professor have not been totally clear to me during the first days. In that period several formal things had to be done like changing money, registration, and opening of a bank account. These procedures may be tricky and time-consuming for a foreigner who is unable to read Japanese forms, however, the kind assistance of my colleague made these steps quite easy for me. Then, after a nice welcome party, the work schedule was fixed. The main part was a course for gradient students in the field of physical chemistry of interfaces, organized monolayers, and multilayer systems with thicknesses in the nanometer range. In fact, I had prepared some material for lectures but not really for a course. In addition, I had very little experience with Power Point presentations. And that nice Japanese laptop that connected me to the Internet showed the interesting and puzzling Japanese characters. Therefore, the initial phase of the course has been somewhat difficult, but the

kind help in case of a technical problem strongly facilitated this part of my work. To my regret, the direct interaction with the students during the course was quite rare. One reason for the lack of intense communication is obviously the language problem. I should like to emphasize that the young people have to learn and practice the English language. This is worldwide the common way of communication. Although Japan consists of a well-defined group of islands and has stayed isolated for long period in its history, the rapid exchange of information and the increasingly important interaction with people from many countries forces the Japanese to overcome the language difficulty. So, I tried to get some feedback from the students by handing out a sort of summary of each lecture and asked them to answer written test questions. However, I admit that I am a little disappointed about the lack of communication. Other activities involved a seminar and a lecture as well as a visit of the laboratory for investigating monolayers. The discussion of the actual projects and the common scientific interest in the behaviour of two-component monolayers may lead to more intense collaboration after my return to Germany if preliminary experiments yield adequate results.

Discovering history and culture

For good reasons, most historical buildings in Japan have been constructed from wood. Only few important old structures are made from stone, like the bridge Megane-bashi in Nagasaki. This appears quite unique since the Europeans are used to see very old structures made from stone like the pyramids in Egypt or remnants from the greek and roman periods as well as medieval fortresses and cathedrals in Europe. This remark does not imply that wood is a weak material, on the contrary. Even in Gottingen, some houses dating back to the 14th

century are based on wooden frames as supporting structure. However, I got the impression that buildings in Japan may not be meant to exist “eternally”. An example of this attitude I saw in Nara. There, the tradition has existed to tear down and reconstruct the Kasuga Taisha every 20 years (until the end of the 19th century). Among the many temples and shrines that I have seen before and during my stay in Fukuoka, the most impressive for me may not be the most famous wooden buildings. I have been particularly fascinated by the Kiyomizu-dera in Kyoto due to the impressive structure supported by hundreds of wooden columns. Whereas Nagasaki illustrates the influence of western attitude, ideas and economy on Japan, Dazaifu, Nara and Kyoto show in a unique way historical roots of Japan. In a totally different way, Himeji castle caught my attention. This castle that never served its intended function and has indeed been a well-known scenery in a modern movie, is for me another piece in the intriguing puzzle of Japanese tradition. In a strange way, it recalled in my mind the “modern” castle of Neuschwanstein in Germany that is entirely artificial and not intended to protect people. However, Himeji is obviously a totally different structure since it indeed prevented attacks. Fascinating objects of Japanese culture have been for me the Zen gardens that I have seen, for example in Dazaifu or Kyoto. These places allow one to relax and contemplate in a particular way.

Japanese people

Japanese people are serious, quiet and very polite. This western stereotype describes a small fraction of the Japanese character only. I have been surprised by the very kind and open attitude of the Japanese towards me in shops, on the street, in the subway, at railway stations, everywhere. And I got the impression, that Japanese enjoy parties, festivals and other events. On such occasions, the people are relaxed like everywhere else. New Years eve 2003 in Fukuoka has been totally different from those that I experienced in Gottingen. My colleague, his wife and a friend kindly took us on a tour through various temples and shrines including



ringing the bell. I had no idea about this habit before and I am very grateful for this excursion. A few days later, the well-known event at the Hakozaki shrine gave me another unique occasion to see Japanese people. It is particularly amazing to observe so many men with high quality cameras and huge arsenals of lenses. This demonstrated to me that Japanese people take many, many photos not only abroad but also in Japan. Another observation struck me: the attitude towards nature. Japanese have been and are extremely efficient in developing civilization and industries. Nevertheless, the strong link to nature manifests itself in many places, not only in public parks, often in tiny things like flowers and plants in front of small houses. There seems to exist a particular relation to trees, like the very old ones in Dazaifu. Could it be that there is a common sense between Japanese and Germans? Well, I have been most impressed by the respect with which Japanese people meet each other. This truly social attitude has become rare in western countries. I felt really relaxed even in very crowded places, like Ueno station at midnight, when hundreds (or thousands?) of people moved around. Sure, it may simply be called politeness, however, I believe that the particular social interactions between Japanese that are difficult for me to understand and which are reflected in delicate language structures are a treasure that hopefully will exist for ever.

The time I had the privilege to spend in Japan turned out to be a very rich present.

(元九州大学 客員教授)

六本松探検

九大：1号館114番教室からの発信

2009年 空になる九大六本松地区キャンパスの跡地利用の行方 《六本松を考える会》からの提案

六本松を考える会 たけ ぐら ぐみ こ
嶽 村 久美子

これまでの知的財産を大事にしたい

10年前、九大の移転が公表されてから、地域にできた「六本松・草ヶ江地域まちづくり協議会」を中心に、福岡市や・地域団体、企業からの会費や補助金を受けて移転後の跡地利用が検討されてきました。小学生が跡地への夢を絵にしたり、住民にアンケート実施がありました。その後、1999年の総会では、将来像の青写真が明らかになりました。

六本松1：土地の合理的利用による新規住宅供給

六本松商店街：再整備による新規住宅供給

九大跡地：専門店が中心の商業施設、レストラン、ホテルの供給

六本松地区に九大を中心にした昔のような活気を取り戻したいという町の世話役や商店主・企業の方々の思いは理解できます。しかし、福岡市の真ん中に残された貴重な土地、舞鶴公園・大濠公園・南公園・鴻巣山と続くグリーンベルトを大事にしたい。地下鉄開通も視野に、通勤族・高齢者の多いこの地域には、人の輪が質・量ともに広がる文化の薫りがする生涯学習の場がふさわしいのではないかと。何よりも、福岡の真ん

中にあるこの地は、六本松地区住人だけでなく、福岡市民全体の貴重な財産ではないか。

100年後「開発して、高層住宅や大型商業施設があったよかった。」とはならないのではないかとという疑問を持つ仲間が集まって、「六本松を考える会」を立ち上げました。4年前のことです。

それから、独自の活動を続けてきました。学習会の開催、担当部署への訪問をしました。知りえた情報は、「六本松を考える会たより」を発行し地域の方に提供しました。現在16号まで発行しています。

九大六本松キャンパスの魅力

これまでに、4回のリレートークをしました。そのうち2回は、九大六本松地区キャンパス1号館114番教室で行いました。また、5回の九大キャンパスウォッチングを行いました。のべ、400名近い方々の参加を得て、ご意見を伺いました。

キャンパスには、32種350本の樹木があります。松は、特に時代を感じさせます。これは、植物園に匹敵するくらいの財産です。また、図書館、体育館など、国の施設ではありますが、しばらくは福岡市民の貴重な

学びや憩いの場として使用できるのではないかとのおもひもしています。

話し合いを重ねるうちに、人任せでなく、自分達で意見を発信したいという機運もうまれてきました。参加者の意見を紹介してみます。

- ・市には、公園・児童館・福祉施設を期待するのが妥当。
- ・次の世代に喜ばれる施設を官民共同で作り上げたいものです。
- ・老人も子どももお隣さんもお向かいも家族のような助け合いのできる六本松でありたい。福祉会館での共同のお風





これからのこと

2011年には、六本松地区キャンパスの土地の明渡しが終わるといわれています。

福岡市は、今年の暮れに、何らかの跡地利用策を発表します。マスコミ報道によれば、「裁判所の移転先は九大?」という案も浮上しています。

私たちなりに、皆さんの意見や願いをまとめ、「六本松を考える会」としての理念や提言をみなさんにわ

かりやすい表現方法（ことば・絵など）で公開したいと思っています。そして、マスコミの協力も得ながら、署名活動・市への提案などを模索中です。

2月に地下鉄が開通すると、周辺の交通事情も変わってくるかもしれません。私たちは、六本松大通りの信号を、人にも車にもやさしい「歩車分離式信号」に変えることを望み、署名運動もしました。引き続き、要望していきたいと思っています。

これからも、毎週の事務局会議を定期的に続け様々な分野の方との資料や情報交換をしながら、活用方法を探っていききたいと思います。今、九大周辺の商店を訪問し、お話を伺っています。学生の皆さんの知恵と活力もいただきたいなあと思っています。

これからも、知りえた情報をお伝えしながら、50年・100年先を展望し、環境の視点を持ち、福岡市全体の財産としてとらえ、楽しく仲間の輪を広げていきたいと思っています。

- ・ 呂とかおしゃべりのできる部屋があれば楽しい。
- ・ 癒し、和みの空間に。緑のあるくつろげる場。管理しすぎて雑草も生えない公園でなく、季節ごとに雑草が生え変わるのがわかるくらい、適当に放っておくスペースを。
- ・ 生の音を聞きたい。やさしい音。楽器の音…。大道芸人などアマチュア、自然発生的に、ゲリラ的に演奏してよいスペース。へんてこな民族楽器とか自作の楽器とか、アカペラでやってよいところ。小さくても森の中で聴けたらよい。
- ・ 遊びを教えてくれる大人、お兄さんがいて、こまの回し方、凧の作り方、揚げ方、草笛やいろいろ、葉っぱで作るお面とか伝統的な遊びをさせてくれたら素晴らしい。
- ・ 児童館もほしい。雨の日、放課後遊べるところ。
- ・ 障害者も利用できる体育館がほしい。南区のセンターは、公共の乗り物を利用する場合不便。
- ・ 後世に悔いが残らないように無駄な廃棄物を出さない。現在の建物・機能を活用して、市民の憩い場を確保する。
- ・ 円い空の見える空間を大事にし、空気の通る道を確保したい。囲いはずす。文化の薫りのする学府機能を残しながら世代交流の拠点に、生涯学習の場に。
- ・ 九大の運動場は、災害の際の避難地区になっている。広い空間を建物で埋めてしまっては困る。



街区丁目グラフ

いしばしこうすけ
石橋浩介*

おおやまなおひろ
大山野拓*

よしかわ
吉川

あつし
敦**

1. はじめに

我が国では地図を持たずに知らない土地を歩くのはかなり難しい。例えば、あなたが別府二丁目に引っ越してきて、三丁目に住んでいる友人の家に呼ばれているとする。友人宅に行ったことはないが、住所は正確に分かっている。そこで、適当に歩いていき友人宅を目指す事にした。しばらく東向きに歩いて、電柱を見てもみると、「別府一丁目」と書いてある。じゃあ、逆方向かと、今度は西にしばらく歩くと別府五丁目に出てしまった。実は三丁目は北にある。このように、我が国では丁目や番地は一見バラバラに並んでいる。しかし、それは本当にランダムなのか、何かの規則性はないのか、これからそれを検証していく。

もし、丁目や番地のならびに何か規則性があるとしても、それを見つけるにはデータを集めそれを整理しなければならない。この整理の方法が問題だ。例えば、何かしらの実験のデータなどならば、得られた数値を並べて、比べていけばよい。しかし、丁目や番地の場合はそうはいかない。地図を見てみると分かるが、丁目や番地の並びは非常に多種多様だ。丁目だけに限っても、三丁目までしかない場所もあれば、七丁目まである場所もある。形も三角形だったり台形だったり四角形だったり多様だ。そこで、丁目のつながりにのみ注目して調べていく。そのためには以下に紹介するグラフというものをを用いて、データを整理していく。

2. 丁目のグラフ化

グラフと言っても¹、小学校で習う棒グラフや折れ線グラフのようなものではない。ケーニヒスベルグの橋というものをご存知だろうか。図1(a)を見てもらいたい。川の間に2つの島があり、そこに7本の橋がかかっている。このとき、どこかの陸地から出発して、全ての橋を1回ずつ渡って、元の陸地に戻る事ができるだろうか。この問題を分かりやすく考えるためには、4つの陸地をそれぞれ1つの点とし、7本の橋を点と点とを結ぶ線として紙に書いてやればよい。すると図1(b)のようになる。そして、どこかの点から出発し、すべての線を通して、元の点に戻る道筋を考えればよいのだ。この図1(b)がグラフと呼ばれるもので、このように、ある図形をグラフにすることを「グラフ化する」という。また、グラフの各点のことを「節点」または「頂点」と呼び、線のことを「枝」または「辺」と呼ぶ。

これを丁目の整理に当てはめるためには、それぞれの丁目を頂点とし、隣接している丁目はそこを辺で結ぶものとする。すなわち、図2(a)のような地区をグ

* 理学部物理学科3年

** 数理学研究院

1 以下のグラフについては文献[1]を参考にした。なお、文献は文末にまとめてある。

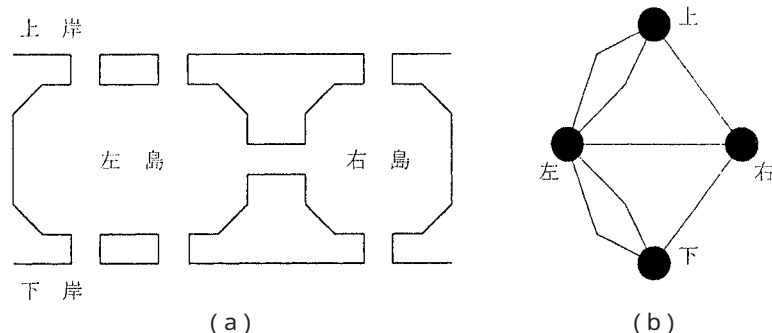


図1 (a)ケーニヒスベルグの橋 (b)そのグラフ化

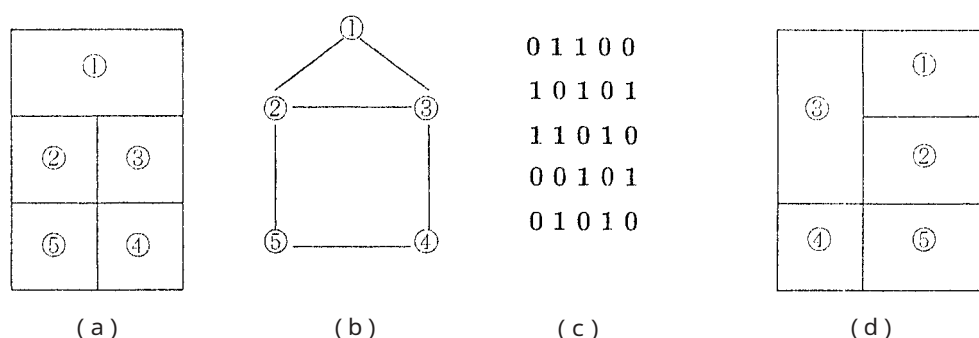


図2 地区のグラフ化の説明

ラフ化すると、図2(b)に示されているグラフが得られる。しかし、これではまだ整理は難しい。グラフ化してもそれはまだ図である。できれば、数字で表せるようにしたい。それにはグラフを行列にする。図2(b)を見てほしい。図2(b)は5つの頂点と6つの辺からなっている。n丁目に対応する頂点をn番とする。この図2(b)を行列にすると図2(c)のようになる。n行目がn丁目に対応していて、n番とm番が辺でつながっているならば、n行m列の値は1となり、つながっていないならば0となる。このような行列を「接点接続行列」または「隣接行列」と呼ぶ。これを用いて丁目をグラフ化していった。

また、グラフ化にあたり、1つ注意点がある。ある1つの図形をグラフ化すると、その図形からは1つのグラフしか得られないが、ある1つグラフからは複数の図形が得られるのである。例えば、図2(a)と図2(d)は明らかに違う図であるが、得られるグラフは同じもので図2(b)となる。しかし、単純化のためにこれら同じグラフが得られる図形は同じものとして扱う。また、図2(a)のような場合、と、とはつながっていないものとして扱う。

3. 福岡市の地区のグラフ化

福岡市の100以上の地区を地図をもとにグラフ化していくと分かった事があった。それはいかなる場合でもn丁目と(n+1)丁目は隣接しているのだ。理由は分からないが我々が調べた中で例外は1つだけだった。また、以下では五丁目までしかない地区に限定して議論していくものとする。これは、二丁目や三丁目までしかない地区では、得られるグラフの種類が少なすぎるし(例えば三丁目までしかない地区では上の説が正しいとすると、得られるグラフは最大でも8種類、二丁目では2種類である。理由は以下で説明する。)、逆

に七丁目まであるような地区はサンプルとなるデータが少なすぎる。五丁目までの地区ならば得られるグラフの種類は最大で64種類である。それは行列を見ると明らかだ。まず、この行列は必ず対称行列となる。これについては説明は不要だろう。そして対角線上(n行n列)は必ず0である。また、n行(n+1)列は上記の説より必ず1である。すると、五丁目までの地区の場合、0か1かどちらか決まっていらない要素は右上の6箇所となる。したがって、得られる行列の種類の最大値は2の6乗、すなわち64通りとなる。

しかし、グラフとしては存在するが、対応する平面図形が実際には存在しないものがある。例えば図3である。全ての頂点が他の全ての頂点と繋がっている。これは現実には有りえない。それを説明するには4色問題というものを紹介する必要がある。4色問題というのは、まず、紙とペンを用意し、好きなだけ紙に線を引く。すると線に区切られたたくさんの区域がでてくる。その区切られた区域に隣接する区域と異なる色を塗っていく。すると、どんな風に線を引き続けても必ず4色以内で色が塗れてしまうのだ。それを踏まえて図3を見てもらいたい。まずを赤で塗る。次にはと隣り合っているのも赤以外、青で塗るとする。次のとは青以外の色を塗らなければならない。同じようにやっていくと、それぞれ違う色を塗る必要がある。すると5色必要でこれは4色問題に矛盾する。したがって、この図形は存在しない。

4. 福岡市と北九州市のデータを並べての考察

表4. 1に福岡市と北九州市の五丁目までの地区のデータを並べた。全部載せるのはスペースの関係上無理なので、簡略化したデータのみを載せた。分類はグラフの辺の数と種類で行い、地区の地名などは省略し、その形に該当する地区がいくつかあったかだけを載せて

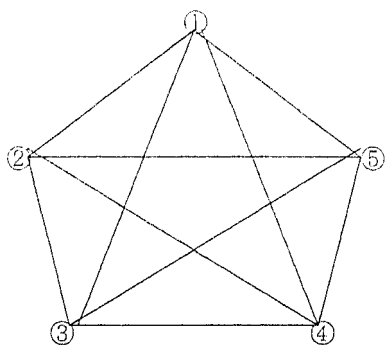


図3 対応する平面図形が存在しないグラフ

いる。例えば、辺の数6本、13、35、6となっていれば、 n 丁目と $(n+1)$ 丁目は必ず隣接しているので、それに加えて、一丁目と三丁目、及び三丁目と五丁目が隣接している地区が6つあったということになる。表を見ると辺の数がだいたい4～6本くらいの地区が多い事が分かる。辺があまり増えすぎると、もとの図形がかなり複雑化するためであろう。しかし、このデータからはそれ以上のことは分からない。ほとんどの種類のグラフがまんべんなく得られていて、多少の偏りがあるものの、特にこれが多い、というのは言えない。また、表中で該当数が0だからといって、そういう形の地区が全国にないとも言いきれない。結局はランダムだということだろうか。

5. まとめ

今回の調査の結論としては、地区の並びをグラフ化して分類していくと、得られるグラフの種類はまばらであるが、比較的辺の数が少なくなる傾向が強い、ということだ。これにより、丁目のつけ方に際立った特徴はないが、丁目ごとの区切り方は単純であることが多いと言えよう。

また、この調査は調べる市町村によってかなりの偏りがある。実は福岡市と北九州市に加えて、久留米市も調べたのだが、久留米市は五丁目までの地名がわずか4箇所しかなかった。前者の両市はそれぞれ30前後の地区があったのだから、偏りはあきらかだ。したがって、今回のデータをもとに、全国的な偏りを推測することはできない。しかし、全国からランダムに100程度の地区を選び出し、グラフ化を行い、全国的な偏りを推測しても面白いだろう。

付 記

この稿は、平成14年度後期の少人数ゼミナールB「僕

たちの時空感覚」(担当：吉川敦)での研究結果をまとめたものである。当初の予定は、古典ギリシア人の空間認識の構造を論じたペーパーバック(文献[2])をざっと読み、検証可能な evidence に基づいて文化社会(同書の場合はギリシア古典文化)を再解釈するという同書の精神を借りて、それにより、我々固有の空間や時間認識に関わる観察を試みようということであった。現実にはすぐに明らかになったのは、ゼミナール参加の学生諸君は英文を斜め読みする習慣は身に付けておらず、かと言って、テキストの内容は律儀に辞書を引きながら批判的に読むのには深すぎることであった。そこで、早々にテキストから離れ、ゼミナールではもっぱら何をしようか、という議論に終始した。

この研究は、§1で述べられているように、我々の素朴な日常的な感覚として雑然とした印象を与える丁目や地番の構造を分析してみようという意図で始めたものである。雑然さのうちに我々日本人の歴史的文化的な空間認識の一端が露呈しているかもしれないからである。

一方、成果はレポートとしてまとめ、Radixへの掲載を目指したいと考えていたので、ゼミ終了後も、石橋、大山両君に激励・督励・督促・懇願を続けてきた。両君が学業その他で忙しい中を、しかも、ゼミでは福岡市だけの事例調査だったのを、北九州市や久留米市まで対象を拡げて調べ、報告の精度を高めたことは賞賛に値する。

本稿は、失礼も顧みず、建築学科の萩島哲教授(大学院人間環境学研究院)にもお目に掛けた。先生のご意見は、専門家から見ても本稿にはそれなりに示唆に富む視点が含まれているとおっしゃっていただいたようで、著者一同には嬉しいものであった。

なお、本稿の関連で、思いつくことはまだまだある。例えば、新キャンパスの建設も一例だが、我々の周辺ではさまざまな建設工事があり、また、災害や戦火による建物や都市建造物の破壊もある。そこで、ある都市域について、適切な時間単位を設定して、過去に遡っての詳細な都市図の変化を定時的に表現できたら、それを基に、都市の生成発展の数理解構に踏み込めるのではないかと、具体的には、反応拡散を記述するのと同類の偏微分方程式系でモデル化できるのではないかと、思う。もちろん、ここ半世紀の都市の詳細な変貌を一箇月単位で記述した変容図さえ作成するのは大変なことであろう。京都のように記録が残っているところ

でも過去十数世紀の変遷を十年単位で詳細に記述することはほとんど不可能だろう。しかし、このような変容図があれば、その変化構造の一端が分析できるであろう。このような発想は全くの妄想だろうか。

(吉川 敦)

参考文献

- [1] 小野寺力男。グラフ理論の基礎。森北出版，1968
 [2] W. M. Ivins, Jr. *Art & Geometry. A - Study of Space Intuition*. Dover Publications, 1964 (Paperback)

辺の数	4 本	辺の数	7 本	辺の数	8 本
辺の種類	該当数	辺の種類	該当数	辺の種類	該当数
	8	13, 14, 15	3	15, 24, 25, 35	0
総 数	8	13, 14, 24	0	14, 24, 25, 35	0
		13, 14, 25	0	14, 15, 25, 35	0
辺の数	5 本	13, 14, 35	3	14, 15, 24, 35	1
辺の種類	該当数	13, 15, 24	0	14, 15, 24, 25	0
13	7	13, 15, 25	0	13, 24, 25, 35	0
14	3	13, 15, 35	0	13, 15, 25, 35	0
15	3	13, 24, 25	0	13, 15, 24, 35	0
24	0	13, 24, 35	4	13, 15, 24, 25	0
25	2	13, 25, 35	1	13, 14, 25, 35	1
35	5	14, 15, 24	1	13, 14, 24, 35	0
総数	20	14, 15, 25	0	13, 14, 24, 25	0
		14, 15, 35	0	13, 14, 15, 35	0
辺の数	6 本	14, 24, 25	0	13, 14, 15, 25	0
辺の種類	該当数	14, 24, 35	1	13, 14, 15, 24	0
13, 14	1	14, 25, 35	0	総数	2
13, 15	1	15, 24, 25	0		
13, 24	1	15, 24, 35	0	辺の数	9 本
13, 25	1	15, 25, 35	0	辺の種類	該当数
13, 35	4	24, 25, 35	0		該当なし
14, 15	0	総数	13		
14, 24	0			辺の数	10 本
14, 25	0			辺の種類	該当数
14, 35	4				該当なし
15, 24	2				
15, 25	0				
15, 35	1				
24, 25	0				
24, 35	2				
25, 35	1				
総数	18				

表 4 . 1

難解「基礎化学結合論」はなぜ難解か？

よこ やま たく し
横 山 拓 史

はじめに

学生による授業評価が行われるようになって数年が経過しました。その結果として基礎化学結合論が最も難解な科目であるという学生諸君からの答えが出されました。アンケート結果によれば、基礎化学結合論をほとんど理解できない人が90%にのぼりました。その主な理由は、高校も含めて物理を学んでいなかったり、勉強不足であったということになっています。そのために、平成15年度から数学と物理を学んだ後の1年生後期または2年生前期に開講することが決まりました。

平成15年度後期の基礎化学結合論に対する評価

平成15年度後期の授業終了時に行われた基礎化学結合論に対する学生による授業評価について紹介します。全部で11の講義が9人の教員（理学院4人，工学研究2人，薬学院1人，比較文化社会研究院1人，高等教育総合開発研究センター1人）により開講されました。アンケート対象の学生は627人でした。ここでは、全体の平均について考察することにします。

(1) 理解度について

表1に理解度についての結果を示しています。

表1 平成15年度後期の基礎化学結合論の理解度

理 解 度	割合 (%)
かなり理解できた	0.3
ほぼ理解できた	13.5
あまり理解できない	52.5
ほとんど理解できない	33.7

理解できたのはわずか14%弱で、残り約86%は理解できていないという結果です。この結果は、受講時間を考慮しなかった平成14年度前期の結果とほとんど同じと見なせます。物理を履修したことと基礎化学結合論の授業内容の理解度との間に直接的な相関はないのかもしれませんが。

(2) 勉強時間について

表2に結果を示しています。

表2 平成15年度後期の基礎化学結合論の勉強時間

勉強時間 / 週	割合 (%)
ほとんどしない	49.1
30分以下	29.8
1時間以下	14.7
2時間以下	4.9
2時間以上	1.4

理解度と勉強時間はよく相関しています。週あたりほとんど勉強しない人が約50%，30分以下の人が約30%で、この合計は理解できない人の割合とほぼ一致します。週に最低1時間以上勉強（予習または復習）した人は理解できたということでしょう。

そう！基礎化学結合論は勉強しないから難解なのです。「しかし……」と学生諸君は言うでしょう。「何をどう勉強していいかわかりません」と。

高校生がいだく化学に対するイメージ

基礎化学結合論を担当した際、学生にしばしば「この科目は化学じゃない。物理である。」と言われ、困ったような顔をされる。高校生にとっては化学は数式もほとんどでてこない、羅列された事項をひたすら覚える暗記科目なのです。一方、大学でのカリキュラムでは、化学を支える2つの理論（物理と言えないことはない）を最初に教えることになっています。この理論の基礎概念を理解すれば、化学を独力で勉強できるようになるし、理系学生にとっての教養としてふさわしいと考えられてきました。2つの理論とは量子化学と化学熱力学です。この領域の教科書を開くと、多くの数式が目飛び込んできます。学生は、この落差、すなわち高校での化学のイメージと大学での化学教育との間の大きすぎる違いに戸惑っていると推察されます。

全学教育科目としての基礎化学結合論

授業評価結果が指摘した問題点を改善するためには、高校の化学と大学の化学との大きな落差を埋める授業が必要です。量子力学に立脚した考え方が現代の化学を勉強する上で不可欠ですが、高校の化学では化学結合については、古典的なものに限られています。量子力学に基礎を置く考え方には全く触れていないのが現状です。従って“電子は波である”，“光は粒子である”，“我々にも物質波が伴う”などの非日常的な考え方は今までほとんど経験がありません。量子力学の概念が感覚として受け入れられるようになるにはかなりの時間が必要です。はじめの拒絶反応を防ぐには、数式を極力避け、高校でのボーアモデルから出発し、量子力学の基礎概念、高校で理屈抜きで覚える電子殻と電子の収容個数との関係、電子殻と電子軌道との対応、化学結合に関する基本的な考え方、特に理由を教えられない共有結合の本質（+電荷と-電荷との相互作用）をゆっくりと理解させることです。高校の化学と大学の化学の落差を埋めるということは、確実に基礎概念を理解させる時間を与えることです。今まで持っていなかった基礎概念を理解することで、身の回りの化学現象や地球環境問題にも興味を持ち、論理的に

考えられるようになるのではないのでしょうか。

学生諸君へのすすめ

前々項で触れたように、基礎化学結合論については週あたり1時間以上勉強しないと理解できるようにはならないことを忘れないでほしい。私の学生時代の経験に基づけば、抽象的概念を理解することは容易なことではない。教科書は総じて表現を簡略化したり、省略しているのでわかりにくい。ノートや教科書とにらめっこしたところで理解できない場合が多い。やはり自助努力が必要である。“量子力学や量子化学に関する分かり易い読み物”を読み漁ることである。ブルーバックスや岩波ジュニア文庫など多くの本がある。これが基礎的概念を理解（イメージ）し、基礎化学結合論を克服できる1つの方法である。

最後に

本稿の結論は、基礎化学結合論を理解するためには今まで経験したことのない極微の世界の力学、量子力学の基礎概念をイメージできるようになることである。これができれば、学生諸君は何を勉強すれば良いかわかるはずである。
(理学研究院)



芸術工学部



撮影 宮本 守久

平成16年度 学生生活・修学相談室 学部・学府相談員名簿

この4月に相談員の先生方が大きく入れ替わり、前号には掲載できませんでした。各学部の相談員の先生方に履修・修学等の相談をしたい場合は、直接連絡をとられてもいいですし学生生活・修学相談室のカウンセラーを通して紹介することもできます。

学部・学府等	学科・専攻等	氏 名	電 話	地 区
文 学 部	文 学	久 保 智 之	2 3 7 8	箱 崎
教 育 学 部	教 育 心 理 学 系	針 塚 進	3 1 5 5	箱 崎
法 学 部	基 礎 法 学	直 江 眞 一	3 1 9 1	箱 崎
経 済 学 部	経 済 工 学 科	岡 部 鐵 男	2 4 6 3	箱 崎
理 学 部	物 理 学 科	清 水 良 文	2 5 5 8	箱 崎
理 学 部	化 学 科	横 山 拓 史	4 7 5 0	六本松
理 学 部	地 球 惑 星 科 学 科	山 内 敬 明	4 1 7 4	箱 崎
理 学 部	数 学 科	小 池 正 夫	4 7 8 2	六本松
理 学 部	生 物 学 科	小早川 義 尚	4 7 6 0	六本松
医 学 部	医 学 科	吉 田 眞 一	6 1 2 7	病 院
医 学 部	保 健 学 科	小 坂 克 子	6 7 2 1	病 院
医 学 部	保 健 学 科	加 来 恒 壽	6 7 0 8	病 院
歯 学 部	歯 学 科	石 川 邦 夫	6 3 4 4	病 院
歯 学 部	歯 学 科	寺 田 善 博	6 3 6 8	病 院
薬 学 部	総 合 薬 学 科	西 田 基 宏	6 8 7 8	病 院
工 学 部	電 気 情 報 工 学 科	和 田 清	3 9 0 3	箱 崎
工 学 部	物 質 科 学 工 学 科	今 任 稔 彦	3 5 6 9	箱 崎
工 学 部	地 球 環 境 工 学 科	島 岡 隆 行	4 0 9 0	箱 崎
工 学 部	エ ネ ル ギ ー 科 学 科	深 田 智	4 1 4 0	箱 崎
工 学 部	機 械 航 空 工 学 科	吉 田 敬 介	3 4 7 2	箱 崎
農 学 部	生 産 環 境 科 学	大 坪 政 美	2 9 2 0	箱 崎
芸 術 工 学 部	環 境 設 計 学 科	土 居 義 岳	4 4 7 1	大 橋
芸 術 工 学 部	工 業 設 計 学 科	坂 田 年 男	4 4 5 0	大 橋
芸 術 工 学 部	画 像 設 計 学 科	坂 本 博 康	4 5 0 6	大 橋
芸 術 工 学 部	音 響 設 計 学 科	矢 向 正 人	4 5 4 9	大 橋
芸 術 工 学 部	芸 術 情 報 設 計 学 科	藤 原 恵 洋	4 5 2 9	大 橋
比較社会文化学府	国 際 社 会 文 化 専 攻	古 谷 嘉 章	4 6 2 8	六本松
人 間 環 境 学 府	人 間 共 生 シ ス テ ム 専 攻	高 橋 靖 恵	3 1 4 0	箱 崎
数 理 学 府		小 池 正 夫	4 7 8 2	六本松
システム情報科学府	情 報 工 学 専 攻	安 元 清 俊	4 0 4 5	箱 崎
総 合 理 工 学 府	大 気 海 洋 環 境 シ ス テ ム 学 専 攻	及 川 正 行	7 6 8 1	筑 紫
21 世 紀 プ ロ グ ラ ム		副 島 雄 児	4 5 4 2	六本松

外線で電話をかける場合は、箱崎地区・病院地区642、六本松地区726、大橋地区553、筑紫地区583を頭につけてください。

表紙・裏表紙 写真説明

せき や こう いち
関 屋 光 一

今回の Radix No.39 芸術工学部特集「今、芸術工学部が熱い！」はいかがだったでしょうか？ 芸術工学部は、昨年10月の九州大学との統合まで自分がお世話になった学部なのでひときわ思い入れがあります。

さて、今回の Radix の表紙、裏表紙と29頁の2枚の写真は芸術工学部の写真を掲載しています。噴水の周りの風景をいろいろな角度、趣向で撮影したものを芸術工学部の宮本守久技術専門職員に提供してもらいました。特に裏表紙の作品「夕日」は自然のありのままの姿を映したものでありながら、そのありのままの中に高い芸術性を感じさせてくれます。なにげない文字、なにげない風景に命を吹き込んでいく芸術工学部の学生のセンスは私達の視野を確実に広げてくれます。「芸術工学部をあばく！」次はあなたの番です。

(全学教育事務局)

新世代のキャンパス計画と第1期移転

坂井 猛・広城 吉成... 2

全ての種を守る - 九大新キャンパス

生物多様性保全事業の挑戦.....矢原 徹一... 6

今、芸術工学部が熱い！

坂本 一浩・新川 昌明

馬場 尚美・山田寿美子... 8

サークル紹介 32

使える英語を学びたい.....堂脇 吉典...14

九大女子ラクロス部紹介.....輪島加奈子...15

議員インターンシップに参加して...庄島 香織...16

普段の生活の中に「いい時間」を見つけよう

吉良 安之...17

世界・日本 20

第2回ドイツ・インターンシップ研修

Andreas Kasjan...18

An Approach to Japan

Dietmar Möbius...20

六本松探検 3

1号館114番教室からの発信.....嶽村久美子...22

街区丁目グラフ

石橋浩介・大山野拓・吉川 敦...24

難解「基礎化学結合論」はなぜ難解か？

横山 拓史...28

平成16年度 学生生活・修学相談室 学部・

学府相談員名簿.....30

投稿・写真歓迎

編集委員会では radix への投稿、紙面を飾る写真を募集しています。あなたが関わっている様々な活動、六本松地区や「全学教育」にまつわる出来事、六本松の思い出など、六本松や「全学教育」に関するものであれば何でも結構です。

表紙写真も、キャンパスでのもの、旅先でのものをはじめ、あなたの作品、ぜひ紹介したい知り合いの作品など、広く募集しています。応募、推薦の対象は六本松や「全学教育」に関わりのある全ての方です。

radix 学生モニター募集

編集委員会では radix に対する学生の意見・要望を聞くためにモニターを募集しています。また学生編集委員も募集しています。募集は常時行っています。

投稿、写真、学生モニター・編集委員の応募は下記で受け付けます。

編集委員 A.カスヤン(言 文 ☎726-4666) 鎗木 政彦(比 文 ☎726-4632) 川口 栄男(農 学 ☎642-2892)
(04年度) 小山 紘三(高研セ ☎726-4585) 是松 正俊(事務室 ☎726-4504) 田中 健夫(高研セ ☎726-4802)
中野 武彦(医 学 ☎642-6697) 西野 常夫(比 文 ☎726-4600) 橋彌 和秀(人 環 ☎642-3143)
丸山 徹(健 セ ☎583-7863) 矢向 正人(芸 工 ☎553-4549)
高等教育企画掛(事務室 ☎726-4525・4526)



「夕 日」 撮影 宮本 守久

あ	と	が	き
---	---	---	---

大橋キャンパスに普段は自転車で通勤しているが、雨が降るとバスに乗る。朝の渋滞に巻き込まれると、30分以上を車内で過ごすことになる。最初の頃は、それだけあれば十分に本が読めるなど内心喜んでいて、ところが、実際に車内読書を実行してみると、その時間が中途半端な長さであるということがわかってきた。短編小説や論文を一篇読み切るには短すぎるのだ。しかし、たまに関西方面に出張があったりすると、新幹線での数時間は本好きの天国である。六本松の皆さんも、どうか充実した読書生活をおくってください。(MY)

8月19日、8月30日、9月7日と相次いで台風が福岡地方を直撃した。我が家の栗の木はそのつど枝が折れ、哀れな枝ぶりになった。九大のキャンパスでも大きな樹木が根っこから倒れ、何十年の歳月で育った豊かな緑が一瞬で失われた。一方、収穫を目の前にした梨や柿が吹き飛ばされた果樹農園の人々はためいきとあきらめの心境でただただ耐えるのみである。情報化社会で便利になった世の中にあっても自然のエネルギーとともに生活している農林業や漁業の人々と共存する視点を忘れてはいけなさと実感した。(NT)

この夏はスポーツの話題に事欠きませんでした。日本プロ野球史上初のストが行われるか否かは目下流動的で、このradixの39号がお手元に届く頃に日本シリーズが無事行われているかどうか気になるところです。こちらは問題だとしても、ギリシアオリンピックでの日本人選手の活躍は目を見張るものがありました。何が今回のメダルラッシュをもたらしたのか(スポーツ科学の進歩? 基礎体力の向上? メンタルトレーニングの成果?), 周囲には専門家がいるので聞いてみたいですし、radixにも寄稿して貰いたいと思います。(TM)

radix (ラーディクス) No.39 (九州大学全学教育広報)

発行日 2004年9月30日

発行所 九州大学高等教育総合開発研究センター

〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4525・4526 (高等教育企画掛)

FAX (092) 726-4530
